

寺
ごよみ
一月
三日 栗虫助成会
四日 栗虫・報恩講
五日

御正忌報恩講
一三日 昼一時 速夜
一四日 昼一時 速夜
一五日 朝十一時 お講
夜七時半 速夜
一六日 朝十一時 お講
昼一時 満座
本山布教師 原 広道師

寺
ごよみ
二月
一日 お講・浦山
五日 三都市・報恩講
一三日 生地・荻生・報恩講
一四日 お講・下立
一六日 下立・報恩講
一九日 舟見・報恩講
二〇日 入善・泊・報恩講
二二日 入善・泊・報恩講
二三日 板屋・熊野・報恩講
二六日

寺
ごよみ
一月
三日 栗虫助成会
四日 栗虫・報恩講
五日

寺報 善 巧

発行
〒938 富山県下新川郡
宇奈月町浦山 497
雪山 善 巧 寺
〒938 富山県下新川郡
宇奈月町浦山 497
FAX 0765(65)0055



雪華院 釋隆弘法師

一月一日午前零時
除夜会

一月一日午前七時
修正会

お年賀のごあいさつは欠礼いたします

平成二年九月十七日、若はんが亡くなりました。門徒の皆さんに親しくして頂いた御厚情に對し厚く御礼申し上げます。雪華院釈隆弘法師。セツケインリユウコウ法師。今は、お浄土にいらつしやいます。あの笑顔も、もう此の世では見られませんが、在りし日の若はん——こう呼ぶのが一番相応しいと思います——を偲んで追悼の言葉を綴ります。

悼雪華院

「夢を語る会」の仲間。これには、日本一美味しい酒が飲める会と云うおまけが付いています。此の会を中心に、若い世代も寺に集まって来るようになりました。これにつづいて日本一美味しいお菓子を食べる会と称して、花の会が生まれました。寺の学校と名付けて子供達が寺に集まり、お話を聞くようになりました。その子供達の中から「雪ん子劇団」が誕生し、活発な活動をするようになりました。お経の会が出来ました。白鶴会が出来ました。こうして若はんを中心に寺が大きく動き出したのです。本来、寺と云うものは、人々の集まる場所です。よろこびは、集いから湧き出るものです。

そのよろこびの集いを、誰が作るか。マイナスからはプラスは出て来ない。陰からは陽は出ない。ネクラからはネアカは出ない。プラスと陽と明るさ。これらを兼ね備えた人間の生き方。それがどんなに素晴らしいかを身をもって教えてくれたのが若はんでした。若はんが亡くなったが、残してくれた沢山のお説教の本があります。本で読むだけでなく、テープからは声が、ビデオからは姿が見られます。もう一度その声を聞き姿を見て新たに雪華院を偲びましょう。 住職 雪山俊之



僧 鎔 師 の 心 を 味 わ う

行信教校長 利 井 明 弘 師

僧鎔和上の空華忌です。じつは僧鎔さんの百回忌に私の曾祖父である利井明朗が導師をさせていたでいるんです。弟のお葬式の時に、この辺を歩いておりましたね、僧鎔和上も明朗もこの辺を歩いておられたんやなあ、今ごろは弟が明朗じい

と逢うとるなあと思ひましてね。百五十回忌の時は利井へ案内がなかったんです。その日の夕方ここへ大きな男がやってきて「よすみの利井や」というた。そのじいさんがお参りした後大演説をして満堂のお同行が感涙にむせんだということです。

明 教 院 から 雪 華 院 へ

さ ら に つ づ く 空 華 の 心



この興隆じいがなく
なったのは私が小学
校五年の時、弟が小
学校に上る年でした
から、私もよく知っ
ています。
二百回忌には私の
父が導師をさせて
もらって、その帰り

るんです。
空華の一番の特徴は「理屈よ
りもお念仏をよろこぶ、もつと
いえば、こちら側には何にもな
いというのが徹底しているのが
僧鎔和上の考え方なんです。私
の力は何も認めない、全てして
いただいているというのが、空
華の一大特徴です。そんな私だ

から、阿弥陀さんが働いて下さ
ってなかつたら、お浄土へ行け
ないんですよ。こうしたら助か
るかああしたら助かるかという
話じゃないんです。おまかせな
んですよ。
今、この俊隆くんが私のと
ころにきているんですが、俊隆
が勉強している部屋がじいさん
の書斎だった、そこに隆弘もい
たんですが、この興隆の隆をも
らって隆弘というんですがね。
この書斎で、じいさんが父に云
うたんです。「よかったなあ」こ
のことはなかなかでんもんで
す。まちがいない救うよ、なま
んだぶつよ、安心せえよ、なま
んだぶつと唱えなさいよ、絶対
に救うぞというておられる。こ
れはね今きいて今安
心できるんですよ。
何べんも聞いている
うちにわかるなんて
いうもんとはちがう。
この世の命終った時、
必ず救うという仏さまがいらっ
しゃる。まちがいないことです。
それをきいて「なまんだぶつ、
よかったなあ」といえるんです。
「よかったなあ」と逢いましょ
うね。まちがいない隆弘もここ
のおじいさん達もよかったなあ
と逢える場所に生まれられるん
です。

二人で話したんです。「お浄土
へ帰ってからのみやげ話がまた一
つできたね。おじいちゃんに逢う
たら、同じようにおまいりさし
てもらったよって言えるね」と。
二百五十回忌には、私の息子
がここへ来てくれるであろうと
思っています。

弟のご縁もありますが、この

お寺と私のお寺とは大きい大き
いご縁でつながっていた、そん
じよそこらのご縁ではないので
しょうね。僧鎔師の教えられた
方の弟子が、私のひいじいのお
師匠、ということはいいじい
僧鎔和上のひまご弟子というこ
とになります。僧鎔和上からず
ーっと線をひいてくると、つな
がっている深いご縁がみえてく

今、この俊隆くんが私のと
ころにきているんですが、俊隆
が勉強している部屋がじいさん
の書斎だった、そこに隆弘もい
たんですが、この興隆の隆をも
らって隆弘というんですがね。
この書斎で、じいさんが父に云
うたんです。「よかったなあ」こ
のことはなかなかでんもんで
す。まちがいない救うよ、なま
んだぶつよ、安心せえよ、なま
んだぶつと唱えなさいよ、絶対
に救うぞというておられる。こ
れはね今きいて今安
心できるんですよ。
何べんも聞いている
うちにわかるなんて
いうもんとはちがう。
この世の命終った時、
必ず救うという仏さまがいらっ
しゃる。まちがいないことです。
それをきいて「なまんだぶつ、
よかったなあ」といえるんです。
「よかったなあ」と逢いましょ
うね。まちがいない隆弘もここ
のおじいさん達もよかったなあ
と逢える場所に生まれられるん
です。

特別ドキュメント番組

雪山隆弘さんからの
メッセージ **仏陀バイ**

病いを通して「生きるとは何か」を、家
族と共にみつめる雪山さんの入院して
からの 2 年間を追います。

制作 北日本放送 金沢敏子

12月29日午前10時30分～11時25分
北日本KNBテレビ

近日発売!

雪山隆弘著

ブツド・バイ

みほとけのおそばに
サンケイ新聞に連載された若院
の蘭情記「道」が本になって、
近日、京都の百華苑から発売さ
れます。表紙・挿絵とも若院本
人。是非読んでください。

寺
こよみ

三
月

一日 お講・浦山

二日 浦山・報恩講

九日 太子会

一六日 お講・析沢

二〇日 総代会

二四日 雪ん子劇団春の公演
☆富山報恩講は今年から九月に
なります。

で き た 夢の会館

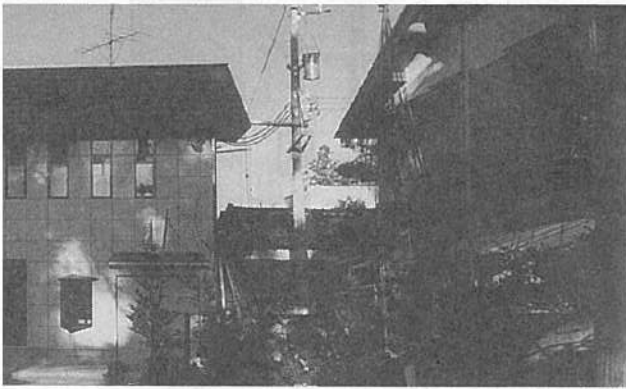
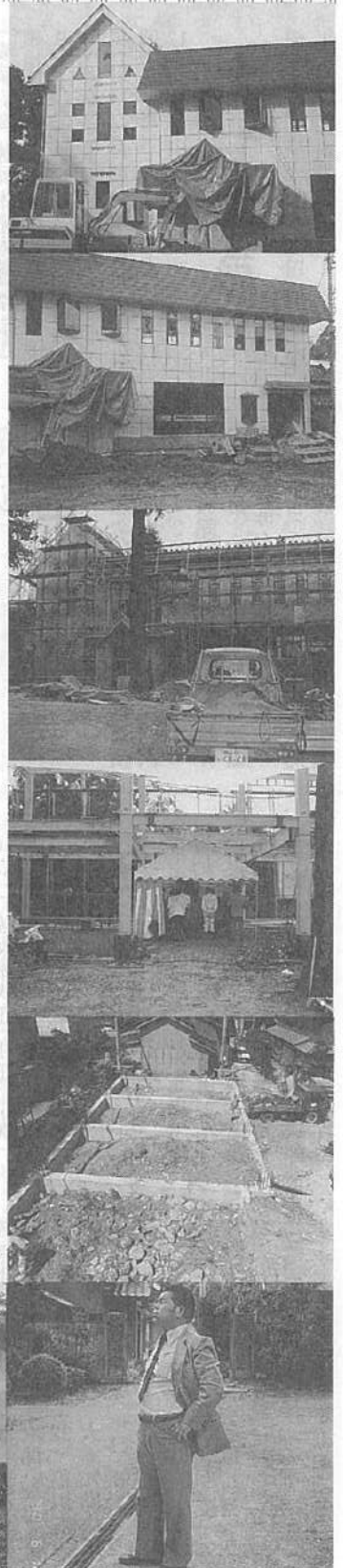
生きた寺 開かれた寺へまた一歩飛躍を

〔門徒以外の寄進者〕

- ▼百万円 雪山俊之・喜子 利井常見寺、利井興弘
- ▼五十万円 雪山隆弘・玲子、雪ん子劇団夢を育てる会
- ▼三十万円 雪ん子劇団、
- ▼二十五万円 山田満喜ほか
- ▼二十万円 善積まゆみ 浦山善巧寺お経の会
- ▼十五万円 浜美枝
- ▼十二万円 桑原淳子
- ▼十万円 広瀬英明、落合はやみ、岸本濡子、川口汐子、龍宝裕子、ジャパンレディースボウリングクラブ、須田開代子、道法睦子、善積治子、種村健二郎、森正隆、佐々木哲哉・陽子、夢を語る会、北川トキエ、花の会有志一同、岡田設計事務所
- ▼五万円 雪山有花、福島きよ、由紀子、松田みどり、八懸正治、谷梅枝、森内庄一、栃沢外茂夫
- ▼三万円 雪山俊隆、河村ふさ、栗山秀吉、中みさ、大田由里
- ▼二万円 雪山教隆、井堂やよい、白壁喜久子、牛島冷子、武田順子、高田春枝

〔門徒関係寄進者〕

- ▼一万円 田中澄子、今泉佐堂子、藤原清子、中谷靖、渡辺さかえ、谷口芳雄、上野忠一、関口茂文、鬼原秀夫
- ▼七百万円 鬼原勝次
- ▼百万円 福沢敏次、大藪トキエ
- ▼三十五万円 浦滝友一
- ▼三十万円 樫稔、川瀬達也、鬼原文二・富子、浦山久雄、丸田賢一
- ▼二十五万円 沢田最一
- ▼二十万円 岡田栄一、大藪良造、中山慶太郎、菊地良造、野島重一、船屋幸弘、鬼原みつ、鬼原貞男、川瀬久義、嶋田久一、鬼原六義、開沢信一、大藪守、橘ひな子、岩上巳之助、開沢弘、新保茂雄、野畑一雄
- ▼十五万円 朝倉さくら、中村忠夫、清水久一、橋本庄吉、浦滝甚一、沢田修、鬼原長之助、森岡昭二、佐々木助一、野畑松二、川瀬正一、開沢國雄、開沢宏之、上坂好次、高島久彦
- ▼十三万円 開沢義輝、本波孝
- ▼十万円 浦山みき、水越作郎、
- 佐々木与作、高島宏、佐々木隆吉、佐々木勝武、佐藤忠行、佐々木次一、中村石夫、山本勇、寺崎巖、野崎吉郎、野崎慶三、山本浅吉、橋場仁作、橋場孝正、佐々木憲勝、橋爪正義、棚茂樹、中林与一、谷川正明、谷川広司、川口英信、川口三郎、岡田幸満、本波甚二、二口実、加藤友司、西中正毅、河村忠次、田中久、本波光雄、本波国昭、新保幸一、大藪国康、有馬文義、沢田米作、有馬勝男、本波祥伸、新保助作、沢田幸雄、本波才一、岩崎整、大浦栄三雄、八木秀雄、沢田武次、橘信光、新保幸夫、藤沢利雄、新保栄一、尾沢正敏、尾村石次郎、尾村豊、尾沢清浩、尾沢徳蔵、大藪敬三、本波弘毅、丸田實、開沢庄造、開沢弘治、開沢稔、開沢利雄、藤沢義雄、開沢茂、藤沢義信、藤沢生一、谷口正、佐藤勲、山根清治、山根駒義、山根としえ、板川伊左次郎、板川進、板川忠雄、板川梨、板川安二、板川久松、板川俊人、板川吉信、浦滝武雄、浦滝政司、浦



ハートスポット 誕生



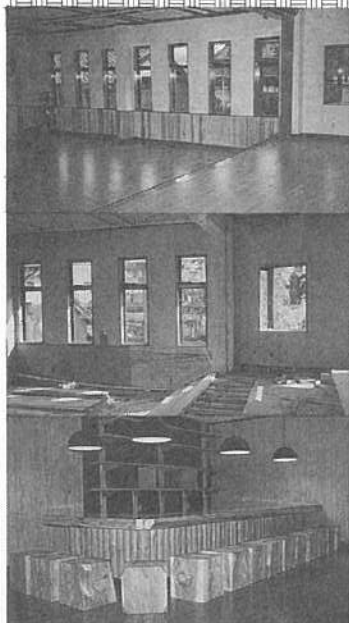
皆様のおかげでついに完成。心よりお礼申し上げます。

滝義松、鬼原隆志、鬼原孝嗣、鬼原勇、鬼原幸晴、鬼原勇作、鬼原マツエ、鬼原賢治、鬼原長吉、鬼原政栄、鬼原秀雄、島田与一、嶋田久徳、川瀬敏久、川瀬常和、川瀬恭一、川瀬正一、山本正義、鬼原作義、川瀬仁吾、佐々木理一、嶋田正一、野島威上野一雄、佐々木安正、佐々木政信、清水清次、鬼原利秋、中村市次郎、佐々木直盛、沢田忠信、大浦征夫、浦瀧すみ子、中林健美、板川清治、久田智登司、板沢重盛、板沢良雄、板沢重吉、板沢栄作、吉松誠次、鬼原友義、山下トシ、野村竹春、菊地幸正、佐々木勝義、谷川繁雄、野崎弘、本波芳夫、丸田聡、佐々木作盛、野畑弘、板川孝昭、中村豊三、森岡栄一、田中米作、板沢駿太郎、中村慶一、中村義昭、山内健二、沢木義一、山本静雄、本波吉男、岡田嘉太郎、八木武吉、河村幸作、西中森一、藤沢猛、河村君子、佐々木入次、大浦みい子、大藪理二、本波秀夫、佐々木隆、大藪利夫、岡田洋、岡田与造、東

狐幸一、根岸はる、岩上孝夫、山本辰義、板沢茂憲、新保政二、佐々木敬蔵、野村松義、野島義春、山根浅二、中坂宗作、開沢稔、開沢庄造、大藪茂博、松平原治、板川由二、橋清治、内島弘之、橋秀明、板谷賢作、川内武夫、谷口源作、岩上勝彦、中坂岩雄、橋日出夫、板谷忠次、河村三郎、高松昭春、島田三郎、川瀬義雄、浦瀧善造、橋場兵衛、中村久作、沢田文吉、浦田安次郎、沢田信介、板倉一郎、板倉一好、高岡俊博、板倉弘、西中庄作、大島清一、野崎吉久、野崎健治、開沢俊之、谷口吉丸、板川啓三、板川正義、谷川敏之、丸田久次、丸田邦明、岡田清次郎、川口信行、島田松伊、山根武夫、谷口義博、山本秀雄、鬼原義治、橋政憲、丸田信夫、東狐義之、沢田良子、大野弘喜、丸田甚吾、丸田博昭、越後光男、丸田守孝、丸田和重、丸田貞夫、丸田進、丸田正一、寺崎憲太郎、丸田一夫、有馬和夫、橋爪伊佐夫、佐々木字親、開沢英一、島田信夫、藤

沢政次、藤沢義雄、沢田正、棚英志、橋場正、川内博、佐々木与左エ門、川内正之、新保啓一、橋常由、西中武之、大浦邦雄、西中雅博、新保光代、新保隆夫、岡山実、板沢俊一、中坂百合枝、大藪勝志、大浦豊、上坂利明、橋弘、佐々木貞盛、板川邦雄、山本彦由、嶋田丈久、森岡春信
▼七万円 山本久雄
▼五万円 谷口律雄、大藪昌枝、中村吉男、松平原蔵、本波正人、谷川勇、谷口重義、高倉茂、中坂政信、尾沢清司、藤沢久作、丸田敏弘、丸田梅壺、藤沢潔、開沢豊作、森岡清松、板沢久志、野崎正宏、橋幸雄、野畑徳次郎
▼三万円 高島とし、沢田フナ、中村良夫、大藪博紀、藤沢清、朝倉輝雄、川瀬忠夫、開沢憲一、川瀬久雄、橋てる子
▼二万円 大藪トミ子、野崎榮吉、川内義尊、川内勤治、橋場一三三、橋場東作、山下順一、川内義正、谷口栄作、川内さよ子、山本友吉
▼一万円 山本市次郎

(十二月十日現在 敬称略)



お浄土へ またあちらで



父は最後に『やりたいことは全てやった。人生五十年思い残すことはない。いい人生だった』といていました。くやししい、悲しいけれど、あれだけ満足してお浄土に行き、八月に亡くなられたお父さん（利井興弘）とも再会して、『ウィスキー』と最高の笑顔で私達を見守ってくれていると思えば、何もいうことはありません。私達もこういう世界を支えに、短かくはかない人生だけれど、せいいっぱい生きて、今度お浄土で父に逢う時には、父の大好きだったことばで『逢えてよかったね』といってもらえるようなすばらしい人生をつくっていきましょう。

（九月二十一日 茶毘式で）雪山 俊隆

隆弘師がメガネを外し法話をなさるアツプのシーンがありましたね。顔全体がやせられたその分、眼が強調されていました。その眼の生き生きと澄んでおられる

女先生が、男先生は仏様になられたのよとおっしゃいました。でも私達は男先生にもっともつと教えていたかったです。『鬼はいやしくないんだよ。みにくい心を持った人がだめなんだよ』の教えは忘れません。

雪ん子劇団十二期生

平成二年九月十七日午後四時十五分、兄は逝った。大阪の寺に生れた兄は善巧寺という恰好の場と最良の伴侶を得て、才能が一気に開花した感がある。

子供を集めてことばの教室「雪ん子劇団」を作り、村人たちにはかみくだいた仏陀の教えを説いた。兄の手柄にひかれ、寺にはだんだん人が集まるようになった。そんな彼に直腸ガンの診断が下されたのだ。

嘆きうろたえるまわりの人たちに「人間は百パーセントの死亡率、身体は医者に、心は阿弥陀様にお任せする」そう言って最初の手術を受けた。今年二月

みんな待っているところへ帰る。そんな気持ちで死を迎えることができた。もういうことはない。先日、その待っている人が、また、一人ふえた。私の実父である。大阪の常恩寺の前住職で、僧侶の私塾、行信教の校長をして

入院した時、一度だけ便りを受けた。むすかしい老僧だから、長い説教でも書いてあるかと思いきや、たった一行「おい、隆弘、人間、生きるとの間は、生きると」とあった。生きていた間は生きていた。死について、いかに考えた。死について、いかに考えた。死について、いかに考えた。

ブッド・バイ

以前から高血圧、糖尿などをやり、八十を超えてかなり弱ってはいた。それでも、仏法広まれの心あつく、全国を講演してまわり、この夏は母校の本講もつとめた。二日前には、戦友と花の万博へ行き、花をめで、インドネシア館で思い出にひたつたという。そして今朝、気持ちよく風呂に入り「息子、お前も入れ、ええ風呂じゃ」と母に言

道

ある宗教家のガン体験

雪山 隆弘

雪山氏は十七日午後、直腸がんのため亡くなられました。この最終回が遺稿となりました。ごめい編をお祈りします。次回からは作家、大西巨人氏の闘病記です。

両肺への転移が判明、余命いくばくもないことを知る。が兄は三人の子供達にこう言いきった「人生五十年、やりたい事は全てやった。思い残すことはない」と。 涯だった。 善積まゆみ （暮しの手帖29号より）

若はん

御往生の御事は十日も経ってからはじめて承りました。私どもの山内・派内の者に申しますと、誰もが衝撃をうけまして、惜しい方を、たった一度のご縁だったのに忘れられない方、命を張って生死を語って下さったと心底惜しく存じます。今までもこんなに感銘を残して



高田派本山専修寺
常磐井和子お裏方

下さった御講師はございません。ほんとうに大きなものを私どもの心にのこして下さいました。命を賭してお浄土を、お念仏をおすすめ下さる方が今の世の中にお出になって下さったのも、み仏さまのお手廻しであつたと存じます。

御恩報事購入
下立愛本お経会発足
花の初まり第一回。チュ
リップの花飾りに囲まれて
日曜学校開校
夏の夜の一夜開法
お盆おとめ第一回
門徒現在帖作製
太子会第一回建設関係の
方々と聖徳太子のお徳をた
たえる。
野休み落語会第一回
内陣法名おひもとき。本堂
内陣に門徒の方々の法名を。
善巧寺婦人会(現在の「花の
会」)発足
おまいりバス運行
三法要記念建設事業完成
(集会所・お内仏の間、甘
露室・空華殿)

「夢を語る会」発足
ことばの教室「雪ん子劇団」
境内でゲートボール
フットン五十組新調
白鶴会発足
三法要慶びの春御門主をお
迎えて
三法要開法の秋前門様をお
迎えて
明教院二百回忌(空華忌第一
回)
「お茶の間説法」
「続・お茶の間説法」
住職大学教授退官記念パ
ーティー「住職日記」出版
雪ん子の夢を育てる会
第一回「新川地域発展賞」
受賞
門徒さんとインド・ネパ
ール・スリランカの仏跡参拝
の旅

若はん十五年の軌跡

十二月一日土曜日。終日も。昨夜は、時ならぬ台風襲来のラジオ放送にびくびくしたが、起きて見ると雨風の気はいも無く、書斎のカーテンを明けて見ても屋根越しに散った銀杏樹の葉が散り敷いている位である。兎に角庭に出て箒を持つ。せめて部屋の前位は掃除して見ようとの殊勝な考えである。三十分ほどすると、「御精が出ますね」と声をかけてやって来たのはK造園の主人。庭木の雪吊りに人夫を連れてのお出でである。毎年御厄介になるのだが、去年はたしか十二月五日だった筈だ。しばらくは掃除を中止して見物に廻る。羅漢樹が中心になる大竹を軸に、四方八方へ縄を張って美しく工作されて行く過程を

つぶさに眺める。私のように凡そ物をつくる労働と無縁な者には、七ツ道具を腰に高い梯子に登って真新しい縄をあつちに投げ、こつちに投げして如何にも清々しい雪吊りが作られて行く手仕事の面白さを羨らやましく見物するのである。「お客さんですよ」の声に、書斎に戻る。隣村の門徒のお婆さんが法事の相談に見えたのである。仏は、己之作・岩次郎・つたの三人。名前を聞いただけで三十年以前の色々な記憶が甦ってくる。法事の日時を定め、雑談している間に十時になる。

住職日記

浦山の自宅法事の寺詣り、「東方偈」をあげる。十一時半からお講のおつとめ。今日は下立愛本の当番。何時ものようにお説教一席。今日のおまいり約六十名なり。昼食はお講のお料理で。午後一時半から村での自宅法事。御主人は、三十年近い町助役の仕事から最近退官なさった方で、四人の故人の法要。座敷二間開け放って善巧寺の阿弥陀様のお軸を掛け仏前を荘厳して観經一卷を上げる。六親眷族五十名ばかり正座している前でのお説教は思わす力がいいる。檀一雄の「モグリ笛、幾夜もがらせ、花に逢はん」を下敷にお浄土の

話をする。法要を終えて一旦寺に帰り、五時半から宇奈月のホテル黒部に席を改める。今度は、法要の席と異ってみんな宿の浴衣姿で、布袍輪げさの私達を迎えてくれる。今夜は、家族揃っての法要記念パーティーなのだろう。酒席の間、色々な世間話を聞く。御主人の六十過ぎての自動車教習所通いの体験談が面白かった。合計六十日かかった由だが、くまるまは自家の田圃へ肥料運びが目的とか。帰院七時。

陀助の 一輪白き

葱の束 片手にさげて

立ち嘶

8.1 印度聖地の菩提樹育てる
お誕生日にプレゼント明治・大正生れの方に小冊子を(結婚・新築祝も)
お盆の法会をはじめ
大屋根大修復
法話テープ作成
フットンコングサート
スノーボード購入
「つづみ」つくり
「南無のこころ」本山出版部から出版
本堂大修復落慶法要
国連・緑の木一本運動に協力をはじめ。仏典物語「ウバリーの出家」みるお経第一巻
茂山忠三郎任言の会
和言車「ワゴン車」購入
年末助け合いに雪ん子街頭へ
雪ん子劇団公演ライブビデオ第一巻発売
祠堂会特別法要・総代会・白鶴会・寺族・戦没者追弔法要・内陣法名法要
ヒハール運動「いのち」を考える「善巧寺で」
「ねんきさま」NHKで放映
「続・お茶の間説法」
退院・出版記念パーティー
「煩惱カルタ本願カルタ」発売
雪ん子劇団十周年記念公演
十周年誌「雪ん子劇団」出版
長男俊隆平安高校へ
テレビ朝日で「お寺の劇団雪ん子たち」
「暮しの手帖」で「若はん」と若奥さんと雪ん子と
夫婦で果・芸文協から同時に受賞
本山布教大会で布教
再入院
木村梢さんとトークショー
「お茶の間説法」テープに建設事業起工式
再入院
50才誕生日
浜美枝さんとトークショー
俊隆得度披露
本願寺保育大学で講演
雪ん子劇団夏の公演
緊急入院
お浄土へ
サンケイ連載「道」最終回
本願寺新報「赤光白光」最終

雪ん子劇団活動再開

小松市チャリティコンサートに出演



ことばの教室「雪ん子劇団」は十一月から練習を再開。再開の日には六年生が代表して、「女先生どうか元氣を出して下さい私達がんばります」と花束を贈って女先生を感激させました。練習が終ると男先生の

お写真の前で「男先生、終りました。ありがとございました」と小さな手を合わせて、キャンディやガムをお供えしています。

十二月九日には小松市民センター大ホールで「うちのとうちゃんえらいんだ」と「にわたりのとさかはなせ赤い」を熱演、身障者も含めた数百人の観客からあつい拍手をいただきました。第一回のこの会では男先生が講演をした、同じ会場でした。二月は砺波の小学校へ伺います。

十二月二十五日、若はんの百ヶ日に善巧寺門徒会館のおひろめをします。若はんの作品展や「浜美枝さんのトークショー」も。どうぞお参り下さい。どうぞごらん下さい。

一くれゆく年の瀬に
しみじみと「いのちの讃歌」を
「お寺座」主人雪山隆弘の死を悼んで、命の尊さ、生きる喜び、いかに生きるか...を考えます。

12月25日
1時 雪山隆弘日々法要 善巧寺本堂
2時 新会館開館 善巧寺門徒会館
「ヒロミ」(雪山隆弘作品展)

2時半 トークショー
『いのちの讃歌』
浜美枝さん他
会館2階 『お寺座』Ⅱ

＊1階事務所「HSB」(ハートスポット・ブザッサム)ではお飲物の用意があります。
〒938 下新川郡宇奈月町浦山497 善巧寺「お寺座」

「新」除夜の鐘 記念品贈呈

今度の除夜の鐘は、新しい鐘楼ができての「撞き初め」になります。平成三年一月一日午前零時を機して鳴りわたる浦山の鐘、どうぞご自分の手でお撞き下さい。お越しになった方には記念品をさしあげます。

また、新会館の「ハート・スポーツ」では新年のカレンダーやお茶を用意しております。おさそい合せ、浦山の newName 所へどうぞ。本年はお年賀はやめさせていただきますが、会館は開いております。ご自由にお入り下さい。

本山団体参拝募集

第十一代顕如宗主四百回忌・寺基京都移転四百年記念法要がご修行になります。

このご勝縁に一人でも多くの方々にお逢い頂きたく、お誘い合わせの上お申込みください。

富山教区教務所
黒西組組長事務所
富山教区黒西組参拝団
期日 五月十日(金)出発
五月十二日(日)帰着
参加費 四万九、〇〇〇円
申込法 申込金一万円をそえて
一月三十一日まで寺へ。

帰敬式(おかみそり)、納骨の希望者はいずれも冥加金五千元をそえて、申し込みの際に。詳細・お問い合わせ 出発時刻、集合場所等につきましては追って連絡があります。その他のお問い合わせがございましたら、お寺へどうぞ。

◆10日	6:00~7:00 組内各地—北陸・名神高速—	13:00~16:30 ご本山(法要参拝・諸行事)—	17:00 門徒会館(宿泊) (Tel075-361-4436)
◆11日	6:00~8:00 ご本山(晨朝参拝・帰敬式)—	9:15~10:45 大谷本廟(納骨)—	15:00 16:40 淡路島一洲本温泉(宿泊) (ホテルニューアワジ Tel0799-23-2200)
◆12日	8:30 9:30~10:10 13:00 13:30 ホテル—鳴門公園—岩屋港—	20:15~21:15 明石港—(東名・北陸高速)—	組内各地

〈なお、日程・内容等に変更のある場合があります〉

お申込みは一月三十一日まで

善巧寺の常例行事

お寺の学校講	お花の会	夢の会	雪ん子劇団
毎月一日・十六日	正月 盆 暮れ	毎週 月 曜 四 時	毎月 第二土曜日
	第一火曜日	第三土曜日	

合 掌

どうにかこうにか寺報「善巧」五十八号ができました。つたない出来ですが、お浄土の若はんは「それでいい、それでいい」とにこにこなすいてくれるでしょう。

十月末から門徒報恩講がはじまりました。今年は法輪寺、照行寺さんに善巧寺の若坊守が行、三人でお参りさせていただいています。なぐさめのお言葉やあたたかいおもてなし、そここに若はんの足あとを感じながら、胸あつくなる思いです。「お前も門徒さんお一人お一人にお会いしてこいよ」と、若はんの声がきこえます。

九月二十一日の若はんのお葬式には千人をこえる方々がお参り下さって、本堂にも入っていただけず、モニターも充分でなく、申訳のないことでした。十二月二十五日から会館では若はんの写真や作品を沢山かざっています。どうぞどうぞいつでも逢いにきて下さい。

